

錦城高校新聞

題字 井口 文章
再刊 第515号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2026

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：ようこそ錦城へ！第64回入学式挙行！
まちなか留学参加レポート
二面：新聞の作り方4ステップ公開！
あなたも編集部に入りませんか？

笑顔満開 花咲け錦城ライフ！

64回生入学式挙行

桜が散る4月7日(火)、第64回錦城高校入学式が挙行政され、留学生2名を含む481名が錦城に入学した。入学式の様子や、新入生インタビューをお届けする。(桃)

自分で地図を描こう

新しい制服に身を包んだ新入生が、華やかな吹奏楽部の演奏とともに体育館に入場した。新しい担任から一人ひとりに名前を呼ばれ、新入生が期待に満ち溢れた声、不安そうな声などさまざまな声で返事。その後校長先生より、481名に錦城への入学が許可された。1名に錦城への入学が許可された。1名に錦城への入学が許可された。1名に錦城への入学が許可された。



期待と不安いっぱい錦城の門をくぐる64回生

64回生に対して、内面に向き合うことの大切さを強調した校長先生。自分の内面に問いを持つと言いつつ、真の情熱を込めて話された。64回生の人生を地図にたとえ、「自分だけの目的地を書き込んでいこう」と呼びかけた。寄り道や失敗など地図に現れないものこそが個性になりえる、また仲間によって見つけられる新しいルートを開拓して欲しいと語る。与えられた地図をただなぞるのではなく、自分で地図を描き、3年後卒業式で「楽しかった」と胸を張れるような高校生活を送って欲しいと締めくくられた。

今シーズンの最後の雪山で合宿

3月24日(火)から27日(金)の間、ワンダーフォーゲル部は長野県の白馬五竜47スキー場で春合宿を行った。白馬五竜のスキー場では山麓付近の雪がとけかかっていたため頂上に近いグレンドエを中心にスキーを実施したという。また最終日にはスキー板を脱いで白馬の頂上にある



晴天の中みんなでハイ・チーズ！

「地蔵の頭」に登り、北アルプスの絶景を楽しんだそう。ワンダーフォーゲル部副部長の吉村優花さん(元2K)は「3日目の朝に雨が降ってしまい、スキーを実施できるかどうか心配でしたが、思い出し作ることができてとても楽しかったです」と話してくれた。吉村さんは新入生に対して



誓いの言葉「感謝の気持ち忘れたいようにしたい」

64回生学年主任の郷野康輔先生は、「ご入学ありがとうございます、そしておめでとう」と和やかに話した。いくつかの言葉を挙げてアドバイスをしたいとい、まずは、大丈夫なんとなかなる」と力強く語りかけた。そして、『今とこれから大切に』という言葉で、錦城はまだ成長過程だから、誰からも応援される学校になつてほしいと話す郷野先生。64回生もその一員と思つてほしいと語る。

その後吹奏楽部が「威風堂々」の演奏を披露し、校歌とともに斉唱。64回生は担任とともに体育館を去り、入学式は幕を閉じた。



錦城の「K」を表したポーズをとる新入生

初めてのホームルーム後、新入生にインタビューを行った。新入生代表で誓いの言葉を述べた長谷川千紗さん(1I)は、錦城の入学式は人がたくさん居たため、緊張したという。今後の錦城生活で楽しみたいこと、緊張したという。今後の錦城生活で楽しみたいこと、緊張したという。今後の錦城生活で楽しみたいこと、緊張したという。

また、松永悠希さん(1B)は先生の雰囲気やフレンドリーと表現し、「一回きりの高校生活なので、楽しみたい」と意気込む。入学式の演奏に惹かれ、吹奏楽部と将棋部が気に入っているようだ。

「むらさき草」
メイクや服の色選びに活用されているパステルカラー。肌の色をイエローベースとブルーベースに大別するもので、最近では16種類にまで分類されたものも話題だ。最近、そのパーソナルカラーの話題で盛り上がりがあった。けれどふと感じたのは、ファッションのためというよりも、その「分類」を流すの話題として消費しているだけじゃないかなということだ。2015年まで、Facebookのプロファイルの性別欄では「カスタム」を選ぶと56種類の選択肢から性別を選べることができるようになっていた。現在では、「カスタム」を選択すると、英語表記の場合の代名詞が選択でき、さらに任意だが詳細な「性別」を直接入力できる仕様になっている。性別表記を細かく分類することで自分にあてはまるものを選ぶように変わってきているが、それが悩みにつながるケースもあるようだ。それに気付かせてくれたのは「多様性をうたいながら、結局型を作っている」というセクシュアルマイノリティ当事者である昔の友人の言葉だった。友人は、自分の固有の性のありかたを「〇〇であり〇〇、〇〇寄りの〇〇」というふうに表示することと自身が、自分を何かに分類することであり、違和感があると語った。アイデンティティを否定されているように感じるようだ。▼性格診断と心理系文系トークとか、私たちが日常的に「分類」を話題のネタにしてしまっている。そして、「〇〇さんは〇〇型だから」と個性を無視した発言をしてしまうことも少なくない。しかし、私たちに分類しきれないものもあるし、それによって誰かを攻撃してしまっているかもしれない。今一度、自分の言動が不意に誰かを傷つけてしまっていないか考え直したい。(鴉)

心躍る 異文化体験 まちなか留学参加レポート

3月21日(土)から23日(月)まで、まちなか留学が行われた。まちなか留学とは、日本国内に住んでいる外国人のお家にホームステイするプログラムだ。錦城高校では初めて行われたプログラムで、18名の生徒が参加した。今回参加した編集委員が訪れたのは、東京に住むインド夫婦のお家。初日、少し緊張しながらお家に入ると、ホストファミリーの二人は温かい雰囲気を出迎えてくれた。そこで振舞ってくれたのがクッキーと、チャイというスパイスの入ったミルクティー。甘いだけではなく、深みのあるチャイの味わいが新感覚で美味しかった。2日目は、ホストマザーから知らないトランプのゲームを教わったり、逆に私たちが大富豪を教えたりしながらトランプで遊んだ。また、インドの民族衣装であるサリーと伝統的なアクセサリを身に付けて写真撮影もした。本格的な装束に心が躍る。最終日となる3日目。別れの前に玄関でホストマザーとハグをして家を出た。3日間通して、ホストファミリーは愛情深く接してくれて、とても充実した楽しい時間になった。参加した2学年の生徒は、「思っていたより自分の家みたいな雰囲気、リラックスして過ごせてよかったです。正しい文法で話せなくても、話そうとすればホストファミリーは分かってくれるし、そういう気持ちが大事なんだと分かりました」と感想を話してくれた。(泉)



夕飯のチャパティとカレー。チャパティはナンのような平たいパンで、もちもちした食感が美味。マンゴーのラッシーはすっきりとした甘さで飲みやすかった。

新聞切り抜きコンクールで3人表彰

2月15日に、東京新聞社主催の第22回新聞切り抜きコンクール表彰式が中日東京新聞本社で行われた。今回のコンクールは、関東から1861人1184点の作品が集まり、高校生からは、905人から640点の作品が集まった。1年生が冬休みの社会の課題として取り組み、錦城から3人の生徒が入賞した。「令和の米騒動」をテーマにした。新聞をただ読むだけでなく、一つのテーマに沿って読み取るという課題をこなす上で、いろんな視点から一つのテーマだけでも、いろんな視点から考え、問題の当事者だったりとか、政府のことであつたりとか、いろんな視点から情報を伝えるという課題を、新聞社の方々は普段から受賞した作品は、2月10日の東京新聞の朝刊に掲載されてに気づきました」という由縁。(蓮月)



受賞作品と笑顔を見せる



制作で得た経験を語る。その気づきをもとに制作したことさらに様々な気づきがあり、とても貴重な経験になったと振り返った。「日本が抱える様々な問題」をテーマにして同じく優秀賞を受賞した、名取伊織さん(元1I)は、たくさんの記事の中から自身のテーマに関係することを選ぶことが一番大変だったそう。今回の切り抜き新聞の作成で、世界や自分の国について、触れる機会が多くなり、自分が知らなかったことへの興味が湧いてきました」と、語ってくれた。二人とも、新聞を切り抜くことで自分の知らないことについて、気づく機会ができたという。また、今回のコンクールで受賞した作品は、2月10日の東京新聞の朝刊に掲載されてに気づきました」という由縁。(蓮月)

人生変わっちゃうよ☆

錦城新聞づくりの4STEPを紹介!!

編集部員大募集中!

錦城高校新聞を紹介☆

『錦城高校新聞』とは新聞委員会編集部が年間約30号発行している学校新聞です。新聞委員会は各クラスから選出され、配布を行う「一般委員」、実際に取材や編集を行う「編集部員」があります。編集部員は委員会所属の希望者に加えて、全くの有志で集まった任意のメンバーで構成。現在、編集部員は3年生3人、2年生13人の計16人で活動しています。

紙面は入学式や球技大会、錦城祭、校外学習などの行事、部活動、生徒会の活動やそれに対する生徒の声が中心。この他にも小平市の公共施設やお店取材や様々な連載企画を掲載しています。

錦城高校新聞は「文化部のインターハイ」と呼ばれる全国高等学校総合文化祭(夏の全国大会)に18年連続で出場し、最近では上位優秀校に入賞しています。昨年の都大会最優秀賞および年間紙面審査賞の受賞により、今年の夏に開催される2026あきた総文への参加が決定しています。

錦城高校新聞は「みんなで作る錦城高校新聞」というモットーで、錦城生や先生方、地域の方々の協力を得ながら長年にわたり発行され続けてきた歴史のある学校新聞です。今後よろしくお願ひします。(編集部一同)

今年度の全国大会出場決定!

錦城高校新聞委員会は錦城生をはじめとした多くの方々に支えられて、これまで多くの実績を挙げてきました。特筆すべきは、全国高等学校総合文化祭(以下総文祭)への出場です。全国高等学校総合文化祭は、昭和52年から各都道府県が持ち回りで開催する、高校生による芸術文化活動の祭典です。この大会は、新聞部門だけでなく、将棋や茶道府県の新聞部や新聞委員会

の代表が一堂に会し、日頃の活動の成果である各校の新聞を展示します。また、参加地の歴史・文化・自然・産業等のテーマ別に分かれて参加地域内にも取材活動に出かけ、新聞にまとめます。全国トップクラスの新聞を作る各校の優れた技術を錦城高校新聞の更なる成長への参考にしよう、という意気込みで参加しています。

道・軽音楽など様々な分野の部門によって構成されます。昨年8月に行われたかがわ総文2025では、約20部門が行われました。今年度は都代表として7月末に秋田県で行われる総文祭への出場が決定しており、今年度で19年連続の出場が決まっています。総文祭(新聞部門)では各都道府県の新聞部や新聞委員会

錦城高校新聞は記事の内容などをすべてを生徒が決めていることが特徴です。編集者を表裏で一ずつ決め、その2人を中心に新たな号を作ります。初めに編集会議を行い、編集者を中心に編集委員全員で企画を決めます。具体的には紙面のレイアウト・記事の内容・担当者・締め切り・文字数の決定などです。その後はそれぞれ、取材対象者にアポを取ったり、記事を書くための調査を行ったりします。

錦城生が興味を持ってくれるような紙面になるように編集委員で工夫しています。前号が発行された後に行われることが多いです。

印刷ミスがないように気を付けながら刷っていきます。協力しながらスムーズに作業していきます。

印刷は新校舎7階にあるプリンターにて編集委員が自ら行って、発行のために生徒、教職員、学校関係者などに向けて約1600部以上印刷しています。完成した紙面は各クラスの人数分ごとに配布されます。また、発行された紙面は錦城HPにもアップロードしています。これら外部の業者に委託するのではなく、生徒自身の手で行っているのがほかの学校新聞とは異なる錦城高校新聞の特徴であり魅力です。

1 企画

2 取材

行事や部活動など取材先は様々ですが、腕章とカメラとパンダーを持って校内で取材を行っている編集部員を見かけることがあると思います。生徒などに行う取材では、インタビューなどを行います。行事の取材では、その時起きたことを速報として伝えられるようにメモしたり、その場の人に即席で取材を行ったりします。そして、取材した内容を文字起こし、記事を書いていきます。取材へのご協力よろしくお願いします!

3 編集

取材を終えたら、すぐに記事担当は記事の作成、写真担当は写真の選別を行います。記事担当は取材した内容をまとめて、パソコンで文字起こし、文字数を調整して記事を作成させます。写真担当は撮影した写真から紙面に載せるものを編集担当に提出します。そして、完成した記事と写真を紙面のレイアウトに組み込み、調整を重ねます。その後に見出しなどを付け、紙面が完成します。

4 印刷・配布

紙面を編集している途中の様子です。見やすい紙面を目指して試行錯誤しながら紙面を編集していきます。

2003	東京都新聞コンクール初出場
2008	東京都新聞コンクール東京新聞賞受賞
2009	全国大会初出場
2016	全国大会優秀賞初受賞
2025	第49回全国大会出場(18年連続)
2026	第50回全国大会出場予定(19年連続)



一緒に活動できることを楽しみに待ってま〜す!!

ぜひぜひ7階奥の編集室へいましてGO! 編集部一同、お待ちしております!

こんなにたくさん!? 新聞委員会の魅力

錦城高校新聞の編集室は、新校舎7階奥にあります。活動日は不定期ですが、日々紙面発行に忙しいです。ただし、他の委員会兼任も可能ですし、今の編集メンバーもワンダーフォーゲル部や放送部、映画研究部、剣道部、生物部、文芸部、ESS部、ギター同好会などの部活と兼部で活動しています。部活や勉強とも両立してきた先輩たちを目指して、活動しています。この新聞は企画、取材、印刷のすべてを自分たちの手で行うため、紙面が完成した時は大きな達成感を味わうことができます。私の考える新聞委員会の魅力は、先輩後輩の壁も関係なく、委員同士の距離が近いことです。個性的なメンバーが集まっており、編集室での会話はいつも盛り上がりつつ楽しいです。また貴重な経験を多く積めることも魅力の一つ。新聞委員会では講演会に訪れる講師の先生や地域の人にも取材する機会があります。外部取材を通して様々な人生や信念をもった人からお話を聞くことで、他では得られない学びや経験を得られます。私は元々文章を書くことや人に話を聞くことが得意ではありませんでしたが、取り組んでいくうちに上達しました。多くの人の話から学び、全員で一つのものを完成させることの達成感や喜びは何にも代えることができないものだと考えています。

「今、こゝでしかできない経験を」とも貴重な経験があなたを待っています。新聞委員会編集室の特徴の一つが外部取材。これまで、地元小平のウクライナ避難民レストラン「Nagisa」をはじめ錦城生がおすすめ地元のお店といった地域の取材から、国立劇場、東京オリンピックパビリオン、東京オリンピック、ウクライナ国立バレエ団東京公演、世界フィギュアスケート開国大会、東京デフレインピック関連イベント、ハンセン病資料館などの特別取材を経験しました。昨年の世界フィギュアスケート開国大会では、オリンピックで金メダルを獲得した「りくりゅうべえ」を直接取材することができました。また、デフレインピックでは400m走、400x4mリレーで1位を獲得した陸上の山真樹選手にも取材できました。どれも、編集部員にしかできない特別な経験だ。実は本気で来てね!! (風)

新聞委員会の知られざる伝統 あなたならどんな一文字を選びますか 錦城高校新聞の記事は編集部員によって書かれています。発行されている紙面の囲み記事をよく見ると、終わりに括弧がついた漢字が書かれています。これは記事の取材と文章を担当した編集委員の署名を当てるペンネームです。名はただ適当に漢字を選んでいくというわけではありません。署名は学年ごとにテーマを考え、これに沿って各々が好きな漢字を選びます。これは錦城高校新聞独自の伝統です。62回生は鳥の名前から、63回生は花の名前から選んでいます。歴代の署名の中には、誕生石やお茶の名前、国の名前などもあります。64回生は何になるのか楽しみです。62回生は「風」↓みずなぎどり(水風鳥) 63回生は「桃」↓もも 「菊」↓きく 「梅」↓うめ 「藤」↓ふじ 「月」↓げつ 「蓮」↓れん 「水」↓みづ 「籬」↓かきくさ 「燕」↓つばめ 63回生は「蒲」↓よもぎ 「椿」↓つばき 「菖」↓あやむぎ 「葵」↓あおい 「糸」↓いと 「綿」↓わた

「むらさき草」 新聞の表面の左下に掲載されている「むらさき草」。学校行事に合わせた旬の話題から自分の趣味、日常生活の中で気になることなど、様々な話題について編集委員が自らの意見を書いています。深く考えさせられるものから笑ってしまうようなものまで、内容は様々です。ぜひ読んでみてください。

オリジナル企画連載中!!

紫羅蘭花 文芸部と編集部が共通するものは何か。それは日々文章を書いているということである。さて、こゝで新企画の発表をしよう。両部による連載小説企画「紫羅蘭花」だ。両部で都合の良い人が毎号、前の人に続くように小説を書き進めていく。繰り広げられる予想のつかない展開をぜひ楽しみにしていただいたい。とりあえず5話完結の小説に挑戦する予定です。なお「紫羅蘭花」は「ストック」という花の名前である。この花を選んだのは現生徒会長が61回生の卒業式の答辞で詩的に触れ、編集部員たちに印象深く感じた花だからである。花言葉は「愛の絆」だと会長は話した。枯れても香りが残る花なのだから。ストックのように皆さんの心に残る小説を書き進めていけばと思う。次号から開始